

## 「パブリックスピーチ ～セルフアピールスキル～」

「このスキルがあれば、きっと素晴らしいスピーチができます！」

皆さん自身をアピールするための「スピーチの技（スキル）」を紹介します！

### 1. パブリックスピーチの原理

・パブリックスピーチ（人前で話すこと）の能力は、大人であれ、子どもであれ、これからの時代には欠かせない。パブリックスピーチの一般原理は次の四つである。

- (1) 聴き手と対話しているつもりで話すこと
- (2) 人の心を動かす（説得する）つもりで語ること
- (3) 自己開示の勇気を秘めて臨むこと（他人事の話では人は動かさない）
- (4) 聴き手の知っている言葉で語ること



\*上記の一般原理を生かした話し方をするために、原稿ではなく、「スピーチプラン」があるとよい。

### 2. パブリックスピーチの種類

・すべてのスピーチは人の心を動かすためのもの。ただし、次の4種類がある。

- (1) 説得的スピーチ；選挙演説
- (2) 説明的スピーチ；料理学校の先生
- (3) 情報提供的スピーチ；駅の構内放送
- (4) 娯楽的スピーチ；漫才



### 3. スピーチプランの作り方

・スピーチプランとは、話の流れや内容がちぐはぐにならないように自分をガイドするためのメモのこと。中には、題目、要旨、話の柱、柱を支える資料（調査結果、人の意見、自分の体験など）、結論、導入の仕方などを各一行程度書いておく。本の目次のようなものである。

#### (1) トピック（テーマ）の選定

・人の心を動かすには、次の4条件のいずれかを満たすトピックを選ぶとよい。

- 自分がよく知っているもの
- 自分に興味のあるもの
- 聴衆にも興味のあるもの

聴衆の役に立つもの；「役に立つ」とは、(ア)新しい考え方を作る刺激や見本になる、(イ)新しい行動を起こす刺激や見本になる、(ウ)ある感情が刺激されて生への意欲が出てくる

#### (2) 要旨の設定

・要旨とは、「自分は何をいいたいのか」ということ。その要旨をワンセンテンスで表現する。ワンセンテンスでいえないということは、要旨の絞り方が足りない。

例；「電子メールはとても便利で、これからの時代に必要である」

### (3)筋立ての設定

- ・要旨を伝える手順を設定することが必要。3分スピーチなら、柱は3本くらいが適当。
- 例；「便利なところ」、「不便なところ」、「便利なのが断然多いのでお薦め」

### (4)資料の追加

- ・一つ一つの筋（柱）に資料を加えていく（肉付けをしていく）。
- 例；「ある学校に勤めていたとき、引きこもりの子どもが担任と唯一、メールだけでつながり、元気を少しずつ回復していった事例」
- ・肉付けは、個人体験、他人の体験報告、統計資料、権威者の意見、たとえ話など、バラエティに富む方が聴衆が飽きない。
  - ・留意点は、「資料を多くしすぎないこと」、「筋を指示するもの、しないものの両方を用意すること（対照的なものを用意すると、争点がはっきりしやすい）」

### (5)結論の設定

- ・結論は目的地。要旨は一般的だが、結論は具体的。
- 例；「一度覚えると手軽。相手の時間もとらず、自分の時間もそれほどとられない。全国の知り合いの人との情報交換にも大きな威力を発揮する。是非、みなさんも使ってみてください」

## 4.パブリックスピーチの導入法

- (1)質疑応答からの導入；「このテーマに関心のある人は手を挙げてください」
  - (2)個人的体験からの導入；「私は……」
  - (3)聴衆に対する印象を語ることから；「皆さんは……」
  - (4)聴衆が意識していないエクササイズからの導入から；「全員起立して、前後左右の人と握手をして自己紹介してください」（「エンカウンター」の元祖、國分康孝先生の講演は、必ずこのエクササイズからスタートします。）
- 例；実際にメールを見せて、「皆さんは、これを知っていますか」という問いかけから入る。

### \*下手な導入

- ・「私は話が下手ですので」等、自分の商品にケチをつける導入はよくない。

## 5.パブリックスピーチの留意点

- ・暗記しない程度に練習する。立て板に水のようなスピーチは情感がこもらない。
- ・会話風にインフォーマルな話し方を用いること。対話の雰囲気のある方が心が伝わりやすい。
- ・全員に聞こえる声で話す。マイクを使うときには、「後ろの人、聞こえますか？」と尋ねるとよい。
- ・定刻（与えられた時間通り）に終えること。

### 演習「3分間スピーチ」

- 4人組を作る。
- 各自、スピーチプランを作成する。（15分）
- 交互に3分間スピーチを行う。スピーチ後、評価表に記入（25分）する。
- お互いに「気づいたこと、感じたこと」を語り合う。（10分）

## <引用文献>

- ・「心を伝える技術」、國分康孝、2001、PHP研究所